

■受領No.1443

高度経済成長期におけるビルの意匠的特質に関する研究 —名古屋都市圏を事例として—

代表研究者

謡口 志保

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 博士後期課程



A study on designing characteristic of the building during economic growth period -Based on Nagoya and its neighboring area-

Principal Researcher

Shiho UTAGUCHI,

Graduate School of Design and Architecture, Nagoya City University Doctoral Course

本研究は、名古屋都市圏にある高度経済成長期に竣工したビル 3 事例を対象として、各建物管理者が所有する設計資料、竣工図面、写真等の史料の分析ならびに現地調査を通して、意匠的特質に関する考察を行ったものである。中部日本ビルディングについては外観の意匠決定のプロセスについて、中産連ビル本館については意匠的特質の維持と機能の更新を両立させる上での視点について、一宮せんい団地のビル群については建築群の配置と意匠的特質について、それぞれ明らかにした。

This study examines the design characteristics of three buildings completed during the period of high economic growth in the Nagoya and its neighboring area through an analysis of design documents, completion drawings, photographs, and other historical materials owned by the respective building managers, as well as through field research. The study also examined the process of determining the facade design of the Chubu Nippon Building, the viewpoint on maintaining the design characteristics and updating the functions of the building of the Chusanren Building, and the layout and design characteristics of the Ichinomiya Textile Wholesale Complexes.

1. 研究内容

本研究は、名古屋都市圏にある高度経済成長期に竣工したビルを対象として、各建物管理者が所有する設計資料、竣工図面、写真等の史料の分析ならびに聞き取り、現地調査を通して、意匠的特質に関する考察を行ったものである。具体的には、中部日本ビルディング、中産連ビル本館、一宮せんい団地のビル群といった 3 事例を取り上げた。以下に各事例考察の概要を示す。なお、本研究は 2021 年度の 1 年間で実施したものであるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初予定

していた資料閲覧・収集のための県をまたいだ移動が制限された部分については、書籍購入や複写物の取り寄せ等により補完した。

1.1 事例①：中部日本ビルディング

中部日本ビルディングは、1966 年竣工で設計・施工が竹中工務店による 12 階建てのビルである。老朽化などを理由に 2019 年 3 月末をもって閉館し、現在は建替え工事が進んでいる。新ビルの特色のひとつに「半世紀の記憶を継承しつつ高層化」といった項目があるが、今後名古屋の中心市街地のシンボルとなりうる建築に継承されようとする

意匠が、どういったものであったのか検証しておく必要がある。そこで、中日ビルが建設された背景と経緯をまとめ、中日ビル社が所有している海外視察写真とパースを中心に外観の意匠決定プロセスについて考察を行った。中日ビルの外観意匠を決定する要因となったのは、①敷地が名古屋復興都市計画に関係していること②1961年の特定街区制度創設から容積制の全面適用の期間の法適用されていること③アメリカの商業ビル視察が影響していること、の3点であると明らかにした。中日ビルは設計を担当した宮地が米国にて視察した独立型ビルのファサードデザインを複合的な用途を持つ街区型ビルに応用させ、かつ宮地の考える日本の伝統的な意匠を共存させた建築であることがわかった。また、当時のアメリカでの流行を読み取り、日本国内ではまだ珍しかった回転レストランを導入するなど、新しい試みが多く込められていた。本考察では、中日ビルの外観に関して一面を切り取るだけに留まっているが、名古屋都市圏の1960年代の建築状況を知る上で、重要な建築であったと位置づけることができた。

1.2 事例②：中産連ビル本館

中産連ビル本館は、1963年竣工で設計は坂倉準三建築研究所(現：株式会社坂倉建築研究所)、施工は清水建設株式会社による4階建てのビルである。中産連ビル本館は竣工後に建築家の手を離れてからも、施主でもある中産連ビルディング株式会社によって良好な状態で現在まで建築が維持され続けている。建築の意匠的な価値が継承されていく上で、完成後の改修が与える影響は大きい。ここでは、契約図、パンフレット、改修台帳等の確認と聞き取りや現地調査から、具体的にどういった改修がされてきたかの分析することで、意匠的特質の維持と機能の更新を両立させる上での視点について考察を行った。外部については、2～3階のタイル張りのヴォリュームと4階の庇を竣工時と同様に維持しつつも、1階と4階ではガラススクリーンを保持した改修を行ってきた。内

部については、ロビー・廊下等には天井を除いた竣工時の仕上げを維持するかそれに準ずる材料を採用し、各居室では部屋の用途に適応した新しい仕上げ材へ改修が行われている。総じて、建築を構成する大きな骨格と再現不可能な仕上げを細やかなメンテナンスによって維持しつつ、会議室やオフィス空間を中心に必要な機能性・快適性を重視した改修を柔軟に行いながら建築をアップデートさせてきたことを明らかにした。本考察を通じて、同時代に竣工した建築の質的維持において必要となる視点が、以下に指摘し得る。改修工事を行う際には、「変えない部分」と「変える部分」を長期的な視野で明確に示し、その建築が元来持つ意匠的な特質と状況に合わせた機能性の両方をバランスよく共存させることが重要である。

1.3 事例③：一宮せんい団地のビル群

一宮せんい団地の建築群は、国の施策として行われた店舗等集約化事業によるもので、約2年間で110数棟のビルが一斉に建設され、全体としては1971年に完成した。せんい団地では、所有者が変更されたり、増改築されたり、建物解体後に駐車場として利用されたりしているビルも存在するが、全体としては約8割が現存し、建築群としては開発当初の状態を今日においてもよく残している。せんい団地を建築的にみると、各企業の建物は異なった意匠を個々に採用し、一見すると多様であるが協同組合一宮卸繊維センターの意図のもと、街区割りや建物配置といった配置計画、建物個別の外観や形態といった意匠がまとめられた。ここでは、建築群の配置と意匠的特質について、計画と実態の比較検討を行った。せんい団地の建築群における配置と意匠は、事業主体である組合が意図をもって全体を計画し建築協定を定めるなど、全体のゾーニング及び建物配置から外観意匠に至るまでの「都市美」を実現させようとしたものであったことが明らかとなった。建築群の配置と意匠に関する具体的な特徴として、RC造2階建てを主体とする建物群が前面道路側に壁面線を

揃えつつ建て詰まって配置され、建築群の多くで1階と2階以上に断面的な段差のある形態が外観意匠となっていることがわかった。建築協定など組合の意図が示された部分では、計画通りに団地全体に配慮した統一感ある景観が実現された一方で、示されていない部分において、①敷地の裏側で生じる状況に合わせた柔軟性と②外観意匠の多様な展開や建物形式の違い、すなわち、意匠の多様性が見いだすことができた。

1.4 今後の展望

近年、建築を地域資源として活かす持続可能な都市形成やまちづくりに期待が高まっている。京都や金沢などの例を除き、日本の地方都市の中心市街地は、主に戦後、とりわけ高度経済成長期頃に建設された建物によって構成されている。しかし、社会情勢の変化によって、建築の観点からどのような特質や価値を持ちうるのか評価される前に、前述した高度経済成長期の建物が次々と取り壊される社会的状況がある。この状況下において、本研究は既存建物の利活用や評価をする際の視点を示唆する一助になり得るのではないかと考えている。今後についても、同様な事例研究を継続して行っていきたい。

2. 発表（研究成果の発表）

- 1) 謡口志保：中産連ビル本館における意匠的特徴の維持と機能の更新に関する考察，日本建築学会技術報告集，第27巻 第67号，pp.1530-1535，2021.10
- 2) 謡口志保：店舗等集団化事業による卸売団地の形成過程について——宮せんい団地を事例として——，日本建築学会学術講演梗概集（北海道），2022.09（投稿済、2022年9月に発表予定）
- 3) 謡口志保：中産連ビルについて，DOCOMOMO Japan2021第4回選定記念シンポジウム発表，2021.9.11
- 4) 謡口志保：中部地方の坂倉準三建築について，DOCOMOMO Japan「羽島の宝物—旧羽島市庁舎」発表，2021.10.27